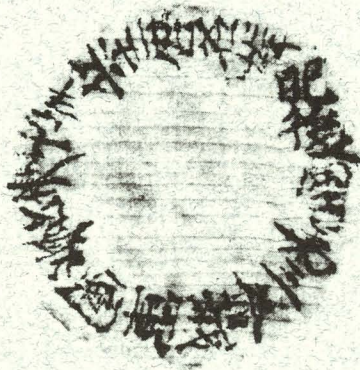


昭和59  
年 度 平城宮跡発掘調査部

発掘調査概報



1985

奈良国立文化財研究所

## 凡 例

1. 本書は、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部が、昭和59年度に行った平城宮跡および平城京内遺跡の発掘調査の概要報告である。各調査報告の執筆は各現場の発掘担当者が行った。
2. 下記の発掘調査については、別途報告書が刊行されるので、本書には収録していない。(巻末『その他の発掘調査一覧』参照)
  - 左京(外京)二条六坊十二坪 (第158次調査)
  - 左京四条二坊十五坪 (第156-8次調査)
  - 左京八条一坊三・六坪 (第160次調査)
  - 左京九条大路 (第156-23次調査)
3. 遺構図に付した座標値は、平城宮内遺構の場合は平城方位に基づいた座標値、平城京内遺構の場合は国土方眼座標値、薬師寺境内の場合は伽藍中軸線に基づいた座標値である。平城方位とは、内裏内郭をめぐる築地回廊北面の北雨落溝の方位に基づくもので(『平城宮発掘調査報告 XI』P33参照)、宮内に設けられた基準点のうち、No.7(第二次大極殿基壇上)を(O, O)とし、東西南北をEWSNとして正数(単位m)で表示する。但し、第155次調査については、基準点をNo.3(S 369.319, E 242.044)とした。
4. 遺構図には、遺構ごとに一連の番号を付け、番号の前に、SA(築地、塀)、SB(建物)、SC(廊)、SD(溝、濠)、SE(井戸)、SF(道路)、SK(土壌)、SS(足場)、SX(その他)などの分類記号を付して、その遺構の種類を示した。

## 目 次

I 平城宮の調査	2
1 南面大垣東端地区の調査 第155次	3
2 推定第一次朝堂院地区東南隅の調査 第157次	13
3 内裏東方官衙地区の調査 第159次	19
4 第二次朝堂院地区の調査 第161・163次	20
5 北面大垣の調査 (1) 第156 - 3次	39
(2) 第156 - 31次	39
II 平城京の調査	40
1 左京二条三坊三坪の調査 第156 - 18次	42
2 左京二条三坊六坪の調査 第156 - 22次	44
3 左京三条四坊四坪の調査 第156 - 17次	46
4 左京四条二坊一坪の調査 第156 - 6次	47
5 左京五条二坊一坪の調査 第156 - 27次	57
6 左京(外京)五条五坊九坪の調査 第156 - 33次	59
7 左京九条一坊三・六坪の調査 第156 - 2次	60
8 右京二条三坊十二坪の調査 第156 - 10次	61
9 右京三条三坊四・五・六坪の調査 第162次	63
10 右京八条一坊十四坪の調査 第156 - 32次	65
III 平城京内寺院の調査	66
1 薬師寺回廊の調査	66
2 元興寺旧境内の調査 第156 - 25・28次	74
挿図・図版一覧	75
その他の発掘調査一覧	76
図 版 (1) (2)	

#### 表紙カット

平城宮南面大垣東端地区（第155次）調査で出土した木簡。棒軸の木口に墨書して、その卷子本の内容がわかるようにしてある。軸の両端に墨書があり、一端に「肥後国第三益城軍団養老七年兵士歴名帳」（カット参照）、他端には「肥後国第三益城軍団養老七年兵士歴名帳」とある。肥後国に置かれた四軍団のうちの、第三益城郡軍団の兵士の名前を書きつづった文書の軸であった。

出土地点は、南西大垣の北側溝 S D4100と、二条大路北側溝 S D1250をつなぐ南北溝 S D11640からである。この調査では、式部省関係木簡が多く出土した。軸の長さ32.0cm、軸の直径2.2cm（本文P7～9参照）。

このような軸の木口に墨書したものが、同じ溝から神亀5年の「出羽国郡司考□」とあるものや、推定第一次朝堂院地区東南隅（第157次）調査でも出土している。

昭和59年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報

1985. 6

奈良国立文化財研究所